

## 巻頭言 個人を確かめ、超えていく存在

黍稷農季人

Preface: A real existence consolidating and transcending a personality

Kibikibi Nonkijin

仏教では六道として、天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道があるとされ、この六道を因果応報によって輪廻転生するようだ。僕はこの六道の順番を変えることを提唱したい。その順番とは、天道、阿修羅道、人間道、畜生道、餓鬼道、地獄道である。阿修羅は人間とは違い、神々の類だから、人間道より上に置くべきだと考えた。

僕は世間に抗ってきた阿修羅なので天道には転生できない。人新世に至って、多くの人間はますます野蛮、強欲で、嫉妬深くなって、よほど醜くなったから、人間道には転生したくない。人間道に生まれ、この第四紀人新世を阿修羅として生きてきた。抵抗することにだいぶ疲れたので、次の輪廻転生先は天道へと向かう人々を迎える草花路を選びたい。そこで草花に転生し、ひっそり穏やかに、しばらくは心の美しい人びとに愛でもらう平安の日々を過ごしたい。

自尊なく退嬰する日本国の政治家や官僚、さらには日本人一般、先の国葬儀（いわゆる）は日本国と日本民族の葬儀のようだ。美しい日本と嘯きながら、嘘をつき、どれほど真の日本民族性の社会意識や自尊心を墮落させてきたのだろうか。上から下まで、狭い群れ社会（ムレ、ムラ、シマ）の中での関心と歓心に囲い込んで、嬉々としている。この国が老衰するのは因果応報である。

日本人とは日本国憲法において、日本国籍を有する人々であり、歴史的に異なる民族性 ethnicity を有していても、日本人はすべて平等の基本的な人権、市民権を持っている。現代の国籍日本人は多様な民族性をもった人々により構成されている。北方の

先住民アイヌ民族ばかりでなく、朝鮮民族、漢民族はじめ、世界中から多様な民族性を有した人びとが来て居住している。すなわち、国籍日本人であることと、日本民族性とは異なる。民族性としての伝統文化複合を習得しなければ、日本民族とは言えない。言い換えれば、今どき日本民族性に限って言えば、その自覚と誇りを持った人々は少数に過ぎないだろう。背景となる民族性が異なっても、伝統文化複合を習得しようとするならば、すぐれて日本民族性を有することができる。こうした人びとは先史時代から今日に至るまで世界中から日本列島に来て、居住している。現代に至って、彼らの遺伝子配列が何であっても、国籍だけが日本人という人々よりも、文化的にはより日本民族性が高い。

僕は世界のいろいろな国を旅してきたから、多様な民族の多くの人々にお世話になったので、偏狭な民族国家主義 ethnic nationalism で言っているのではない。伝統文化を継承、再創造すること、学び合うこと、尊重し合うこと、それはどの民族においても自由、平等である。個人や民族を超えて親しい友人や家族になることはできる。超越的な個人主義 trans-personal individualism とか民族主義 trans-racialism はあり得ると考えている。

田舎に残る基層文化に拠る、不易の生き物の文明、都市に起こる表層文化に浮く、流行の創り物の文明、これら両者の和合を求めたい。私たちの幸せと楽しみはそこにある。